

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375300213		
法人名	社会福祉法人 高坂福祉会		
事業所名	グループホーム 扶桑苑		
所在地	愛知県丹羽郡扶桑町大字山那字番所下83-5		
自己評価作成日	平成23年12月25日	評価結果市町村受理日	平成24年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区椿町21-2 第2太閤ビルディング9階		
訪問調査日	平成24年2月24日	評価確定日	平成24年5月9日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活の中で各入所者が役割を分担し、出来ることを続けて助け合っているようにと支援をしています。自然に恵まれた環境を生かし、苑庭に季節の花を育て一緒に草取りをしたり、散歩を楽しんでいます。又、日曜朝市や近所の甘味屋へ出かける事で 地区とのつながりを大切にしていこうと支援をしています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは扶桑町で初のグループホームである。敷地内には特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービス、居宅介護支援事業所が併設されている。苑庭の前には町のグラウンドがあり、地域の子どもから高齢者まで利用する交流の場になっている。日曜日には近くで朝市が開かれ、入居者は徒歩で出かけて行き、買い物をしたり地域の方との交流を楽しんでいる。入居者には役割を担ってもらい、本人の好きなことや得意なことなどを生活の中で活かしてもらえるよう支援している。また、共同生活を通して人とのふれあいや生きる喜びを分かち合いながら、生活意欲を高められるよう職員は取り組んでいる。入居者の高齢化や重度化に対応できるように、隣接する法人施設と連携し入浴設備の利用や情報交換、身体介護の研修などを行い協力してもらっている。また、法人の行事に入居者も参加し楽しんでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由と人権の尊重」「地域福祉・介護の拠点」「出会い・ふれあいの輪」を理念に、その人らしさやできる事を大切に感謝の言葉を心がけ各種催事では地区の方々とのふれあいに努めている。	法人理念を抛り所とし、ホーム独自で心がけていることは「職員は黒子の存在になる」である。入居者の立場に立って考え、ホームでの生活がゆったりと楽しく過ごせるよう、職員はお手伝いさせてもらうという意識の統一を図り実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の「歩こう会」参加、日曜朝市や近所のスーパーへの買い物、相撲部屋の訪問など恒例になりつつある。乳酸飲料や生協の定期訪問があり訪問員との交流を深めている。	実習生の研修や地域の中学生の体験学習を毎年受け入れている。夏祭りに行うバザーでは、入居者が手作りの雑巾を地域の方に販売しており、入居者も毎年楽しみにしている。町内会に加入しており、地域との関わりを大切に、朝市では地域の方との交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者が日々こつこつと作成された雑巾を夏祭り時にチャリティで販売、毎年待っておられる地区の方も好評である。今年度は地元の幼稚園へのプレゼントとしても準備中である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施できていない	4月から運営推進会議を開催する予定である。参加者は区長、地域包括支援センター職員、たんぼぼ授産所、入居者家族、ホームの各職員を予定しており、苑庭で地域密着型サービスの協力者として意見交換を行う準備を進めている。	会議を再開することで、理解と支援、改善課題について意見をもらい、サービスの質の向上に活かし継続することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地区の赤十字支部の方々の協力で毎年作品展を開催、出品している。又、介護認定時には調査員との情報交換を行い連携をとっている。	スプリンクラーの取り付け工事についてや、職場環境改善のため助成制度の相談、助言を得て協力関係を築いている。グループホーム協議会に加入し、情報交換や研修に参加している。赤十字の作品展への出品は恒例になり、本人、家族の張合いになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はない。玄関は通常施錠していないが、居室の施錠はご利用者で希望される事もあり場合により実施、門扉は施錠、外出や散歩等は職員が付き添っている。	重要事項説明書に身体拘束排除を明示し、職員は内容や弊害を認識している。管理者は職員に「だめ」の言葉を使わないように指導している。門扉は施錠しているが、圧迫感の無い生活を目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は改めての研修参加はないが、折にふれ職員間では話し合っており、特に言葉使いについては威圧感を持たれないようにと注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は改めての研修はない。各自が職場内外より情報収集しその都度学ぶよう心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に従い忠実な説明を心がけている。ご質問や不安には誠意を持って対応するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会実施、行事説明や意見の交換の場を設けている。毎月GH新聞を発行し近況報告を行ったり面会などの機会には要望をお伺いするようにしている。	年間行事計画表を家族に配布し、また、毎月グループホーム新聞を発行し郵送している。入居者から出された意見や要望については、職員間で話し合い検討している。外部評価における家族アンケートの結果からは、「気軽に訪問できる」「話をよく聞いてくれる」「柔軟に対応してくれる」と評価を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議にて職員の意見、提案など反映するが今年度は不定期の開催にて日常業務の中での意見交換や報告、連絡が多かった事が反省される。	毎年自己評価に全職員が取り組み、一人ひとりが振り返りと気づきから働く意欲の向上やサービスの質の確保に繋がっている。会議が滞っていたが、再開し定期的に行い意見交換をする機会を設けていきたいと管理者は考えている。	現場職員の意見や情報を取り入れ会議の継続を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を受け職員は得意な事と苦手な事を知り各自が向上に努めている。各職員から折にふれ本音を聞き意思の疎通がとれるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特養合同の身体介護技術研修、全体会でのビジネスマナー・レク技術研修など参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホーム合同研修会に定期参加し意見の交換など交流を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホーム見学や初期面談の際に何でも話をしていただけよう笑顔でゆっくり会話をしよう心がけ「話やすい雰囲気づくり」に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至るまでの経過はていねいに傾聴しGHでの生活をするに当たっての心配事など相談に応じるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHの特性を説明し、医療体制や主治医との連携を含めて、その方の体調に合わせ能力が十分発揮できるプランを作成するよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の家事全般の中で役割を分担しながら助け合い、職員は お礼・感謝・ねぎらいの言葉かけを欠かさぬよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	GH新聞にて近況報告、家族参加の行楽などでコミュニケーションの場を設けている。又、通院時のご家族付き添いなど協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のお友達や近所の方の面会があり、継続していただけるようお願いしている。近所の甘味屋は顔馴染みで車椅子の方など配慮をしていただける。	赤十字奉仕団から馴染みの方数名が毎月2回、話し相手や散歩などレクリエーションに関わってもらっている。ヤクルトや移動パン屋が訪問販売の定期的な訪問があり、入居者は会話を楽しみながら買い物をしている。ホーム事務所前に公衆電話があり利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	料理、繕い物、車椅子を押しての散歩など助け合っておられ各々の場面にて感謝の言葉をかけるよう努めている。精神疾患のある方と認知症の方との関わりの難しさが課題となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療面での支援が優先しGHでの生活が困難と思われる時など、相談や協力に応じる事をお話している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の訴えは記録し把握している。会話から意向がつかめない方とはアイコンタクトなどでコミュニケーションをとり、表情や態度から読み取るようにしている。	好きなこと、嫌いなことや物、生活の様子を具体的に記録し、介護に対する要望や心身上の課題や対応方法を各シートに記入している。入居者の生活を支えるために入居者本人に関心を払い、生活の中でのつづやきを拾い上げ、関係者からの情報収集にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご本人とご家族から生活歴その他時間をかけて伺っている。生活の中でふと言葉にされる内容からあらためて聞き直していくこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回バイタル測定、食事、排泄など記録、又顔色等観察し心身の状態を把握している。毎月1回生活の様子を含め「生活状況報告書」をまとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員とケアマネがケアプランを作成、6か月ごとに見直している。事前に変化など経過観察しプランに取り入れるようにしておりご家族への説明と確認をいただいている。必要時に支援経過記録を残している。	基本的には3カ月の短期目標で評価し、6カ月の長期目標で担当者会議を開催し、援助目標の見直しを行っている。入居者、家族の要望を取り入れ、入居者の状態に変化がある時は柔軟かつ迅速に対応し、介護計画の作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録ファイルおよび職員申し送りノートを活用し情報を共有、日々の様子を知り変化に気づくようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養との合同行事に参加、又、食事形態の変化に対応するため特養厨房よりゼリー食の提供を受けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方は定期の訪問があり庭の草取り、花植えを共に行ったり、作品づくりのお手伝いをいただき交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医の月2回の往診や協力医についての他、ご希望のかかりつけ医の受診が可能であることを説明している。	入居時に嘱託医や協力医療機関について説明している。現在は全員が月2回の往診を受けている。精神科を受診する入居者は、隣接する特別養護老人ホームに職員が同行し、月2回受診している。他の専門医への受診は家族にお願いし、受診結果を報告してもらうようお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養看護師、訪問看護師又は嘱託医の看護師などに相談できる体制はあり、必要時アドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には苑での情報をすみやかに提出、又退院時には看護師やソーシャルワーカーより退院後の生活に不安のないよう注意事項など説明を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所者の高齢化に伴い、体調の変化があるごとにご家族と話し合うよう努めている。GHとしてできること、できないことを説明して理解を求めている。	重度化や終末期に向けた指針は作成していない。将来的には環境を整えば看取りケアについても視野に入れ支援していきたいと考えている。現時点ではホームとして対応できること、できないことを家族に説明し、できる限りの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々の職員が救命講習を受けAEDの使用など学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間や昼間を想定した避難訓練を定期的に実施、入所者も参加して心がまえをつくっている。特養にて食料品の備蓄がある。	年3回、昼間と夜間を想定し、入居者も一緒に避難訓練を行っている。ホーム内にはスプリンクラー、火災報知器、非常通報装置などが設置されている。入居者の部屋には防災頭巾を置き、非常誘導灯が4箇所あり、非常時の誘導が円滑に行えるように配慮している。災害時における備蓄品は特別養護老人ホームに一括してレトルト食品や米、水など3日分を準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、トイレ、オムツ交換など扉を閉め声かけを行う。言葉使いは敬語を心がけ失敗は責めない。又職員間の会話が他の方に聞かれないように配慮している。	入居者の尊厳やプライバシーを損ねないように、トイレ誘導は小さな声で声かけをしている。人前での呼びかけは職員が工夫して支援し、入浴時は戸を閉める等して対応している。人格を尊重し、入居者とのコミュニケーションは敬語で対応するように職員を指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者が決定しやすいように「～しましょうか？」と質問形式で問いかけ意思表示を促すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を訴えられる方は少ないので散歩のお誘い、買い物、針仕事又は居室での静養など様子を見ながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時など整容支援。衣類が選択できる方には朝一緒に選んでいただく。2か月に1回移動美容室にてカット、顔そり、毛染めなど希望に応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、味見、おにぎり作りなど手伝っていただき調理をしている。誕生日、寿司の日、その他行事食を取り入れて変化をつけ楽しんでいただける工夫に努めている。	食事当番の職員が冷蔵庫の中を見て調理している。食材の下ごしらえなどは、手伝いのできる入居者をお願いしている。食材は1週間に1回生協が宅配し、宅配の不足分は近くのスーパーへ車で入居者も同行し、買い物に出かけている。職員も一緒にテーブルを囲み、必要な入居者には介助を行い、会話しながら楽しく食事をしている。下膳のできる入居者にはお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎回記録、管理をしている。施行に配慮しムセ、誤嚥の心配な方にはトロミ剤を使用し安全な対応を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にうがい、歯磨きを実施、夜間は義歯の洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期のトイレ誘導の他、個々の排泄のリズムを知りサインをみつけては誘導するよう心がけている。	自立にこだわらず、その人に合った排泄支援をするよう心がけている。排泄パターンを把握してトイレ誘導を行い、定期の誘導も行っている。夜間はトイレを点灯し、入居者に分かりやすいよう配慮している。失禁などに気づいた時はトイレに誘導し、トイレ内で着替えの手伝いを行い、羞恥心や不安を入居者に感じさせないよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に豆乳、朝食後に乳酸飲料を提供、その他水分補給や食事内容に配慮している。散歩や体操の声かけをし必要時腹部マッサージも実施。便秘が続く時は処方される坐薬を使用する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴、デイサービスの機械浴を利用される方もあり曜日、時間帯は限定されてしまう。季節によりゆず湯、ショウブ湯など楽しんでいただいている。	木曜日以外が入浴日となっており、週2回を目安に入浴支援を行っている。要介護度の高い入居者は、隣接するデイサービスの機械浴を週2回利用し、安心して入浴を楽しんでもらっている。ゆず湯や菖蒲湯など、入浴時に季節感を楽しんでもらえるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室の温度調節、加湿器の導入など実施。日中はソファにても休息がとれるようリクライニングにて膝掛け等用意している。体調によりベッド誘導も行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個別にファイル、必要時確認する。薬は1日分(朝昼夕)に分けてセットし個別ケースで保管、2人以上の職員が服薬チェック表で確認している。変更時は記録し申し送る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	雑巾作り、洗濯物担当、食事の片づけなど役割を持っていただくよう支援している。庭の散歩や歌を唄うことなどよい気分転換である。時々だが希望により夜間ビールの提供をすることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のスーパーへの買い物、喫茶店、公園など不定期で外出。桜や紅葉の折ドライブを楽しんでいる。又年1回の行楽は家族、ボランティア同伴にて東山動物園へ出かけた。	天気の良い日には広い苑庭を少人数に分けて散歩している。時には入居者が車いすを押して散歩することもある。苑外への外出支援は、初詣や花見、紅葉狩りに出かけ、ボランティアや家族と一緒に行楽で東山動物園に行くこともある。相撲部屋の朝稽古の見学にも行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解できる方にはヤクルトの支払いや1日の収支の計算をそろばんにて手伝っていただくこともある。一部の方は買い物、電話のための現金を持っておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内の公衆電話にて相手方の都合のよい時間帯など説明し自由にかけていただく。対応困難な方には相手方に説明し聞く、話すのお手伝いをする。年賀状などご家族に出せるよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度はエアコンや加湿器で調節。七夕・雛祭り・クリスマス等季節の飾りつけを実施している。苑庭では季節の花を育て水やり、草取りなど一緒に行い居間や玄関に飾っている。桜の時期には庭でお茶や昼食を楽しむこともある。	居間と食堂は一体となっている。大きなガラス窓で光が入り室内の明るさを保っている。廊下には入居者手作りの花の飾り物や、習字、絵画が掲示され作品展の会場を思わせる空間である。居室と居室の間にあるトイレは、入居者に分かりやすく表示されており、間違っただけに入らないように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の両側、玄関先などにソファ、長椅子を配置しており気の合う方々が雑談をして利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、使い慣れた家具の持ち込みをされるよう説明をしている。居室に好きな花を飾って楽しめる方もある。	入居時に馴染みの家具などの持ち込みについて説明している。室内にはベッド、エアコン、加湿器、洗面台、クローゼット、押し入れと広い間取りで、ベランダで布団も干すことができる。衣類などの入れ替えは職員が行っている。入り口には表札があり、ドアはガラスの小窓と鍵が取り付けられている。仏壇のかわりに配偶者の写真を飾り、好きだったビールを供えている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレはわかりやすく大きく表示している。トイレは夜間ドアを開け照明をつけるなどして迷わないよう配慮している。		



## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	65	運営推進委員会の実施が過去数年行われていない。委員の人選から時期、内容など検討課題が多く取り組めなかった。	年4回の運営推進委員会を計画、実施。	今年度より新たに委員会発足、5月25日・7月28日・10月25日・12月15日と日程を定め開催予定。ご家族様代表他メンバーの皆様にご依頼と了承を頂いています。内容については施設行事参加を含め随時検討していきます。	12ヶ月
2	59	日勤帯の職員補充が進まずご利用者の個別支援が計画通りいかなかったり、ご利用者の役割作りをしてもその役割を取り合いになったり又は途中でレベルが変わり対応できなくなることも多く、個々の方に喜んで頂く事ができなかった。	ご利用者の役割作りや外出の計画などを見直し、無理なく継続できるプランを作成する。 個々のご利用者に生き生きとした表情が見られるよう個別支援をしていく。	年間の個別支援表を見直し作成しました。定期の職員会議にて個々の支援経過や課題を検討しながら、実施状況を確認していき、必要があれば変更をしていきます。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月
6					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。